























名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考
畜産用具											
河野通明											
飼育用具											
	かいばおけ 飼葉桶	牛馬に飼葉を与えるための桶で、口径40～50 cm、高さ30～40 cmで厚手に作られている。富山県ではウマモン（馬の餌）オケ。把手に縄がついてある。大阪府の牛の共同飼育の農家では牛を使った家が桶に夕食の飼葉を入れて牛とともに翌日の家に届け、そこで食わせて、十分な飼料を与えているかを互いにチェックし合った。	カイバオケ、ウマフネ、ウスフネ		カイバオケ		カイバオケ、カイバオケ	カイバオケ、ハンオケ		【牛馬の飲料や飼料を入れる桶】うーまもんおけ・うしおけ・うしだれ・うまのふね・かいらよ・かいらよげ・かしおけ・かっしよげ・きつ・きつち・ぞーずたが・ぞーずたが・じよみずおけ・じよみずたが・ぞーずたご・ぞみずおけ・ぞみずおけつ・ぞんぞけ・だおけ・たらいおけ・たれー・となおけ・となため・どみどけ・はぎり・ほみいれ・ほみおけ・ほんぎー・はんぎり・ぼち・まーつけ・まーけ・まおけ・ろーずおけ 以上、【標準語引き方言辞典】（佐藤亮一） 【秣（まぐさ）桶】うまふね・かげおおけ・きつち・たいへ・つるしだめ・ふね・ますがた 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
	まぶね 馬槽	馬小屋に設置する横長の飼葉入れて、厚板で上があいた形の槽形。東北地方でよく使われ、一木を削りぬいたものもある。福島県でマブネ（馬槽）。	ウマブネ					ウマブネ			
	おしぎり 押切	牛馬に与える藁や草を食べやすい大きさに切る道具。台板に庖丁の刃を上向きに取りつけるものと、包丁を下ろして切るものがある。片手に藁や草を握り、もう一方の手で把手を下げて押し切るのだが、把手を向こうに押し倒して切るタイプと、支手が向こうにあり手前に倒して切るタイプがある。	オシギリ、ウラキキ、カイ		オシギリ	オシギリ	オシギリ	オシギリ、カイバキ、ウラキキ	オシギリ、ウラキキ、ウラキキ		
	まめかすげり 豆粕削り	家畜の餌にするため、直径40～50 cmの厚みのある円盤状の豆粕削る道具で、明治後期から昭和10年代まで、中国から豆粕が輸入されていた時期に使われた。									
	うまだらい 馬盥	馬の足を洗うための盥。直径70～80 cm、深さ30 cmほどの厚手の盥で、馬の足を洗うので、底を踏み抜かないよう、裏側に補強を入れたものもある。								【馬の盥】ぞーだらい 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
牛馬の装具											
	たづな 手綱	農作業中に牛馬を思うように統御し、また繋いでおくために使った縄。牛は1本手綱で左反転犂の日本では左手で犂の柄を持ち手綱は右手で使うが、右反転の高知県では左手で使った。馬は2本手綱。かけ声と手綱さばきで牛馬を前進させたり停止・方向転換させた。	タヅナ	カラハナ				クチヅナ、ヒキヅナ	チナ	【手綱】おいずな・おもいずな・おもずな・くちもと・はずな・はんな 【牛の手綱】おいなわ・ごーや 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
	くつわ 轡	馬を統御するために馬の口に噛ませる金具で、中央で連結した長さ15 cmほどの鉄棒＝銜（はみ）の両端に鉄環をはめたもの。連結部分を馬に噛ませ、両端の鉄環に面懸をつけて馬の顔に装着し、また手綱をつけて馬を統御する。左右の手綱を引れば銜が馬の舌を圧迫するので馬は言うことをさく。	タテゴ、ウマノクツワ	クツワ	アゲハスナ			クツワ	×	【轡】おもずら・おもて・したかね・たてご・はがみ・もくら 【馬の轡】いさらご 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
	おもがい 面懸	轡を固定するため馬の頭に掛ける紐で、轡と繋いだまま着脱する。馬を使わない時は轡の付かない面懸だけを頭に掛ける。	オモガイ					オモテ	シムゲー	【馬の面当て】おもずら 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
	オモゲー 面懸	轡とは別系統の馬の統御具で、オモゲーはオモガイの訛り。長さ30 cmほどの少し内湾した2本の棒の上端を縄で繋いで馬の鼻に掛け、中ほどの穴に縄を掛けて馬の頭に掛け、下端の穴の一方に手綱を結び他方の穴を通して端を人が握る。手綱を引れば棒が縮まって鼻を左右から圧迫して痛いのので、馬が命令にしたがう。世界に分布するが日本では鹿児島県・沖縄県と北海道アイヌで使われていた。分類名は棒縮頭絡（ほうじめとうらく）。						オモゲ、イタオモテ			
	はなぎ 鼻木	牛の鼻に細枝を曲げた輪を通し、手綱を結んで牛を統御するもので、ハナクリ（鼻繰）とも呼ばれる。幼牛の鼻中隔の軟骨に穴をあけ、皮をむいた若枝を蔓のように曲げて通したもので、原型は蔓の両端を交差させて括ったものだが、10 cm余りの角材の両端に蔓を通してD字形に仕上げたものが主流となっている。						ハナギ	ハナガイ、ハナハナワ	【牛の鼻輪】はなかなだ・はなき・はなぐり・はなずら・はなご・はななし 以上、【標準語引分類方言辞典】（東條操編）	
	はらおび 腹帯	鞍を牛馬の背に固定するための帯で、横木から牛馬の腹を回って反対側の横木に繋ぐ。名前は腹帯だが、鞍を置くのは胸の裏側なので腹帯は肋骨部分に巻き付けることになり、あまり締められない。そこで胸懸・尻懸（鞆）で前後方向にずれないように固定する。	ハラオビ		ハラオビ		ハラオビ	ハラオビ	ハラウビ		
	むながい 胸懸	鞍を牛馬の背中に固定するため、鞍の前枠（前輪）から首の下に掛ける帯で、鞍が後ろにずれのを防ぎ、また牽引力の一部を胸で受けて背中への負担を和らげる役割をもつ。	ムナガイ		ムナガイ、オオマワシ	ムナガイ		ムナゲ			
	しりがい 鞆	鞍の後枠（後輪）から牛馬の尻尾の付け根を回して鞍を固定する紐で、鞍が前にずれのを防ぐ。	シリガイ		シリバサ、シリガウ	シリガセボ、シリガキ	シリガキ、シゲ	シリガキ	ズーガキ（ジューガキ）		

畜産

※備考欄にはあなたの地域の呼称を記入してください

名称	説明	只見	奥三面	羽村	沼津	徳山	滋賀	鹿児島	沖縄	さまざまな呼称	備考
 くつご 口籠	牛馬の口にはめて農作業中に作物を食べないようにする籠。竹籠や藁製がある。中耕・除草・培土など作物の成育した田畑で牛馬を使うときに用いた。	クチカゴ、ウマノクチカゴ					クチカゴ、クチフサギカゴ	クチアテ、ウシノクツカケ	クチクタイ	【牛馬の口をおおう物】くちご・くちびん・くちもっご・くつご・くつのご・ふくつ 以上、『標準語引分類方言辞典』（東條操編）	
 にぐら 荷鞍	馬・牛の背に荷物をのせるための鞍で、枠木の幅は70～80 cm、前後幅は40 cmほどの大振りな鞍。枠木の下に厚さ20 cmほどの藁を畳表などてくるんだ下鞍をつけてクッションとする。江戸時代の街道では1駄40貫（150 kg）、山道では32貫（120 kg）の荷を乗せて運んだ。	ニグラ		ニグラ	コニダ、コニダグラ		ニグラ	ニグラ、ウセグラ、ダテングラ			
 ばしゃひきぐら 馬車引き鞍	近代になって牛車・馬車が物資輸送の主役となったとき、農耕鞍をベースに生まれた荷車を引かせる鞍で、農耕鞍より頑丈に作り、左右に鉄帯を曲げた鞍棒受けをとりつけ、引綱には鎖も用いる。鹿児島県では高さ98 cm、重さ12 kgの大振りな薩摩鞍が使われていた。	バシャウマノクラ			クラ、シンチュウクラ			バシャクラ			
 したぐら 下鞍	鞍の下に敷いて牛馬の背を保護する鞍床で、農耕鞍では稲藁や麦稈を編んでつくる。通常は長方形の藁座布団だが、北九州にはドーナツ型があり朝鮮系。これが明治時代に馬耕教師によって東北地方にも伝えられた。	ウマノント			シト			シタビラ、サンビヤ	シチャンラ	【馬の鞍の下に敷く物】したびら・しと以上、『標準語引分類方言辞典』（東條操編）	
 うまのくつ 馬の沓	藁で作られた馬のはきもので、蹄を保護するためのもの。馬は蹄鉄を付けていないときで、荷物の運搬などのときに蹄の保護に履かせた。農作業では履かせない。牛の沓よりは大きく、蹄に掛ける鼻緒状の2本の小縄が特徴。	ウマノクツ			ウマノワラジ			ウマノクツ	x		
 うしのくつ 牛の沓	藁で作られた牛のはきもので、蹄を保護するためのもの。荷鞍で荷物を運ばせる時に履かせた。農作業では履かせない。馬の沓よりは小さく、蹄に挟み込む1本の小縄が特徴。	ウシノワラジ			ウシノワラジ		ウシノワラジ、ウシノワラジ、ウシノワラジ	ウシノソイ	x		
 ていてつ 蹄鉄	馬の蹄の底に打ちつけて蹄の摩滅や損傷をふせぎ、滑り止めをする金具。明治初期に陸軍が軍馬用に導入してから普及した。普通を使う尋常蹄鉄のほか、雪道・凍結地用の爪のついた氷上蹄鉄があった。	カナグツ、テイテツ			カナグツ				チミ		
鶏関係											
 とりふせかご 鶏伏籠	庭で鶏を飼うための伏せ籠で、シャモの飼育などに使われた。						トリカゴ	トリカゴ			
 とりのきゆうすいき 鶏の給水器	鶏に水を与える陶製の自動適量水やり具。釣鐘型の下部側面に穴があいており、水を満杯にして伏せる形でおけば、受け皿の水が蓋となって満杯の水は出てこないが、水受け皿の水を鶏が飲むと穴から空気が入ってその分だけ水が補給される仕組み。						ミズヤリ、ダルマ				